



「ヨロナ禍のヨミュニケーション」

上杉山中学校同窓会 会長 森 淳志

(二十回生)

二〇二〇年度の同窓会総会は、新型コロナウイルスの影響で、参加される方々の安心・安全を考慮して、やむなく中止と致しましたが、来年、感染が終息して安全が確認された場合には、今年の当番幹事(二七回生)と来年(二八回生)の当番幹事が協力して行う予定ですので、楽しみにして下さい。

とは言え、来年の十月迄に完全に終息しているかは予想が付きませんが、色々

で、身振り手振りや顔面表情、姿勢、おしゃれ・身だしなみなどの、言葉以外の要素を通じて得られる情報が制限され、イライラやもどかしさを感じている人も多いかと思います。中にはリモート飲み会などで楽しんでいる方もいらっしゃいますし、オンライン商談なども増えていて、ビジネスの世界では時間短縮や高効率など良い方向に変化している点もあります。

私は、身振り手振りや顔面表情、姿勢、おしゃれ・身だしなみなどの、言葉以外の要素を通じて得られる情報が制限され、イライラやもどかしさを感じている人も多いかと思います。中にはリモート飲み会などで楽しんでいる方もいらっしゃいますし、オンライン商談なども増えていて、ビジネスの世界では時間短縮や高効率など良い方向に変化している点もあります。

今後の同窓会での同窓会員同士のコミュニケーションを考えると、総会では対面でのコミュニケーションが必要ですが、それだけでは広がりが見られないのが現実ですので、SNSを活用して情報

を拡散し、総会もZOOMなどのオンラインも導入して数多くの方々に参加して頂く事も考えなくてはならない時期に来ています。

しかししながら、現在のコロナ禍のコ

ミュニケーションはと言うと、直接、人と対面するコミュニケーション機会が大きくなり、伝えあつたりする事だと認識しております。



会報第13号
令和2年11月1日(日)
発行所
仙台市青葉区上杉6-7-1
上杉山中学校同窓会
発行責任者 森 淳志



それでも誇り高き上杉山中学校は
進化し続けるⅢ
仙台市立上杉山中学校 校長 敦本芳行

新型コロナウイルスの感染拡大。これは全世界中を長年に渡り混乱させた出来事ではありません。社会全体の様相を一変させ大打撃を与えました。

学校現場にも大きな影響を及ぼしました。二月末全国一斉休校の発表は衝撃でした。

上中生にとって最も尊い予算式は何としても実施することを決断し、感動の中無事終えました。式後に卒業生に休校や卒業式の縮小を伝えました。その時の驚きと悲しみの混じった表情を忘ることは出来ません。「生徒にみじめな思をさせてはならない」そう決意し、在校生が歌う予定だった曲を職員で練習し披露しました。同窓会入会式がなく同窓生としての在り方等の話を頂戴できず心残りです。

一斉休校は三ヶ月にも及びました。やるべき事は膨大なものでした。職員で軸に据えたことは上中の学校経営のグランドデザイン。学校行事等をとおして先輩から後輩へと誇り高き伝統を受け継ぎ、上中生として成長させることを目指す。その精神は開校以来のもの。安易に行事を中止すべきではないと決断し、教育計画に落とし込みました。しかし、始業式の日に生徒へ中総体の中止を伝えなければなりませんでした。生徒の悲しそうな表情に、前述の決意を新たにしました。

上中に宿る象徴的なフレーズ(生徒向)ですが、これがあります。「出来ない理由を考えるのは誰にでもできる。どうすればやれば成功を祈念しています。

最後に、この上杉山中学校に初任の三年間と、校長の二年間を務め教育に関わったことを誇りに思います。多くの皆様に感謝

上旬には他の学校に先駆けて合唱祭を実施し、当日までの取り組みを含め、感動に満ちた素晴らしい行事になつたと自負しています。

九月末、前期最後の全校生徒委員会に参

列しました。「話し合いの熱量はとても高く高い。…全校生徒委員会は熱い思いを全校生徒に送り続ける心臓である。先輩が後輩を育て思いを託すことのできる、「魂」が宿る場である。」(校長室ブログより抜粋)どんな事があつても前進し続けていこうとする上中のリーダー達のエネルギーを感じ、頼もしく誇らしく思いました。

役員会・準備会重ね毎年総会を実施する同窓会は多くなく、上中同窓会の伝統と役員の皆様のご尽力の賜です。本稿「杉山臺」は十三号を数えます。平成二十年以来毎年途切れず続いた総会(それ以前の記録は不明です)は検討の結果中止となりました。

感染リスク回避と参加希望の全国の同窓生の心情を慮つての決定です。来年度の再開と成功を祈念しています。

最後に、この上杉山中学校に初任の三年間と、校長の二年間を務め教育に関わったことを誇りに思います。多くの皆様に感謝

令和二年度 同 窓 会 当番幹事より

27回生 菅野 泰志

令和二年の記念すべき同窓会の当番幹事に指名された二十七回生を代表してご挨拶を申し上げます。

昨年、二十六回生の先輩に声を掛けられ、同窓会に出席したことがついこの間のように思い出されます。昨年から同級生に声をかけ準備万端で今年の同窓会を迎えるはずでした。ところが、今年になつて中国で発生し全世界に広まつてしまつたコロナウイルス感染症の影響で、開催場所であった「パレス宮城野」が七月に閉館、場所を上中体育館に移して開催準備をしていましたが、依然としてコロナ感染症は終息せず、残念ではあります。が今年の開催は中止となりました。

(同窓会開催以来初の「中止」)

来年開催出来ることを切に願つて、二十八回生の方達と協力して準備に移るところであります。

さて、私事になりますが「六十歳、当番幹事、同窓会開催」ということを知ったのは、六年前になります。長年(三十年)通つていたスナック「MOMEN」のマスターが上中の先輩(加藤勝則さん二十二回生)でした。そこには、同窓会の準備をする先輩方が顔を出し打合せをしていました。頻繁に顔を出していた私

はいつの間にか先輩方と顔見知りになり、後輩ということで飲みに連れて行つてもらつたりして可愛がられました。

「自分達の番は未だ先、幹事の電話がこないといいな」と当時は思つていましたが、月日の流れはあつという間で、何と運が良いのか悪いのか、二十六回生の野球部主将高橋先輩&生徒会長泉先輩から電話があり、「来年幹事よろしく」と:

体育会出身(野球部)の私は先輩の言うことは「絶対」で育てられましたので、今年の幹事を「喜んで?????」引き受けました。

残念なことに「MOMEN」のマスターは今年の一月にお亡くなりになり、私の通う「いごこちの良い場所」が無くなつてしましましたが、上中同窓生ということでいろんなことを話し、笑い、泣いたことを懐かしく思い出しています。上杉山中学校を卒業したおかげで、同級生・先輩方とも「いいお付き合いをしているなあ」と感じております。このような経験も母校が持つ「力」だと思い、母校発展のために、出来る限り協力していくたいと思います。

話し始めるといろんなことが思い出され時間が経つもの忘れてしまうのが同窓会だと思います。コロナ感染症が終息して、盛大に開催出来ることを夢に見て来年お会いしたいと思います。



中学生の主張① 生徒会の魅力

生徒会長 田中 吹季

生徒会つて面白い。

第七十二期生徒会の任期が迫る今、心からそう感じています。私の生徒会に対する原動力は、この思いのかもしれません。

勉強のように決まった答えがあるわけでもなく、スポーツのように他人と競い合うこともない生徒会。私はその自由さこそ生徒会の魅力だと考えます。

今年度の臨時休業期間中にも、その魅力は發揮されました。新型コロナウイルスの影響で生徒会の三月から五月の予定はすべて白紙となりました。長い準備期間への残念な思いはあります。では、どうするのか?と従来の型にはまらずに考えるのが生徒会です。

「できない理由を考えるのは誰にもできる。どうすればできるのかを考えるのが上生だ。」視聴覚室に貼られているこの言葉はまさに、先輩方と繋いできた生徒会の柔軟さが表れていると思います。今後の生徒会にも、このスピリットを受け継いでいってほしいと願っています。

生徒会執行部として活動してきた二年間、日々上中の課題と向き合い、時に悩みながらも少しずつ前進してきました。その中で、生徒会を楽しめたことは私の誇りです。これからも、一人でも多くの人が「生徒会つて面白い。」と感じてくれると嬉しいです。

中学生の主張② 仲間との日々を糧に

野球部主将 本田慎次朗

人は失つて初めてそのものの本当の大切さに気づく。全国的に広まつた新型コロナウイルス。その影響を通して改めてそのことを実感させられました。これまで、朝には学校に行つて、放課後には部活がある。これが普通でした。しかし六月一日、中総体が中止になったことを聞き、私の頭の中は真っ白になりました。部活内でも、本気で取り組みたい人、退部を考える人、後輩に代を譲ろうと思う人、様々でした。最後のミーティングの時、後輩の一人が「コロナ禍でも常にまとまつていて嬉しいと思いました。」と言つてくれました。しかし、実際には、私の手ではもうどうにもできない程三年間共に頑張ってきた仲間はバラバラになりかけていました。私は一人も欠けることなく皆で引退したいとずつと思っていたので、そんな状況は、とても辛かったです。どうしたら良いか必死で考えた結果、一つの希望が見えてきました。それは、野球をすることです。実際、練習を始めた瞬間から皆の目の色が変わつて、活気が湧いてきました。答えはとてもシンプルなものだったのです。

私はこの時、野球というスポーツの凄さを実感することができました。スポーツには人と人を繋ぐ力があります。そして、人と人を繋ぐことは、私たちの人生をより豊かなものにしてくれます。これから、大変なこともあると思いますが、仲間と過ごした日々を糧に、成長していました。

(3) 令和2年(2020年)11月1日

令和元年度
仙台市立上杉山中学校 同窓会
定期総会



会長（二十四回）が「同窓生」が「同窓生」として、懇親会の出席者は近々、役員と当番の回期が主ですが、もつともっと同窓生の参加を広げていきましょう」

懇親会では、来賓で祝辞をいたぐる予定だった數本校長先生に代わり、急きょ早坂武P.T.A会長が登壇し、「同窓会開催おめでとうございます。私も三十七回の同窓生です。子どもたちは文武両道で活躍しています。同窓会の皆さん熱い気持ちを、子どもたちに伝えていきたいと思います。」などと述べました。

幹事の二十六回生の石井昌彦さんの乾杯のあいさつで宴が始まり、アトラクションでは、現役中学生の合唱部、吹奏楽部がそれぞれ、日ごろの練習成果を披

とあいさつ。事業報告や会計決算、次年度の事業計画、予算などを審議した後、新役員の紹介、退任役員のあいさつなどがありました。

の広範囲な地域に大きな被害をもたらした台風十九号の襲来から一週間後でした。出席者は中学校、PTAの方々を含め約四十人でしたが、中学校が仙台市指定の避難所になっていたため、避難者の皆さんの対応に当たっていた數本芳行校長先生、菅原徹教頭先生は出席いただけませんでした。残念でしたが、上中も地域の一員であり、災害対応に責任を持つて当たった先生方は本当に疲れさまでした。総会では初めに、森淳志会長（二十回

天皇陛下の代替わりと新元号の令和になつて初めての上杉山中学校同窓会の総会と懇親会が二〇一九年十月十九日、仙台市青葉区上杉三丁目のパレス宮城野で開かれました。

令和元年度 同窓会総会報告

泉英和(二十六回生)



懐かしさがよみがえるアトラクションのスライドショー



素晴らしい演奏を披露してくれた吹奏楽部のみなさん



式に華を添えてくれた合唱部のみなさん

露しました。合唱部は「歌詞に込められた思いを歌いあげます」と語りかけ、「糸」上を向いて歩こうなどを熱唱。吹奏楽部は楽器ごとに幾つかのグループに分かれ、「ハイホー」「ボンボヤージュ」などを演奏しました。

最後に、次年度幹事の二十七回生、菅野泰志さん、植松純子さんが力強く来年総会と懇親会の盛り上げを決意表明。二十六回生の菅原祥章さんが当番の二十六回生の面々を紹介しながらやや長めの手締めを行い、お開きとなりました。



前日からの豪雨にもかかわらず集まった同窓生の皆さん、

上杉山中
近報告

教頭
糸谷 俊哉

この四月より上杉山中学校に勤務しております、教頭の糸谷俊哉（いたにとしや）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご存知の通り、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、六月から学校がスタートしました。中学二・三年生にとっては三月から三か月間臨時休業となりました。一年生にとっても同様で、なおかつ小学校は卒業したけれど、中学校には入学できない期間が二ヶ月となり、所属感のない中過ごした日々はとても不安だったことだと思います。

六月一日に始業式、二日に入学式を終え、上中の令和二年度はスタートしました。ただ、スタートはしたものの、今まで過ごしてきた学校生活とは大きく異なることがいくつも出てきました。夏休み前までに予定されていた学校行事はことごとく、「中止」か「延期」となりました。三年生にとっては最後で最高となるはずだった中総体の中止はとてもシヨツキングな出来事でした。また、修学旅行や野外活動、校外学習、合唱祭も延期となりました。

そのような中、「新しい学校の生活様式」にも慣れ、九月九日にはイズミティ21で合唱祭を開催することができました。限られた練習時間、練習時における様々な制約の中、上



唱祭実行委員会から「コロナ対策」のプリントが出たことです。上中生の意識の高さと頼もしさ、素晴らしいを感じた瞬間でした。

この原稿を書いている現在、上中では六月の学校再開以降見送られていた「あいさつ運動」や「生徒会役員選挙」が行われています。

伝統ある上中生の活躍はコロナ禍であっても、特別な時でなくとも、いつでも見られるものなのです！

ナウイルス感染症拡大防止のため、六月から学校がスタートしました。中学二・三年生にとっては三月から三か月間臨時休業となりました。一年生にとつても同様で、なおかつ小学校は卒業したけれど、中学校には入学できない期間が二ヶ月となり、所属感のない中過ごした日々はとても不安だったことだと思います。

この四月より上杉山中学校に勤務しております、教頭の糸谷俊哉（いたにとしや）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

中でも注意と工夫で何とかやつていけると思わせてくれた非常に重要な学校行事でした。また、さすが上中生！と感じたのは合唱祭実施に当たり、上中生の合

A black and white photograph showing a group of approximately ten students standing in a single row outdoors. They are all wearing light-colored shirts and dark trousers or ties. The background is a plain, light-colored wall.

令和2年度 同窓会役員名簿

役職	回生	氏名	備考	役職	回生	氏名	備考
名誉会長	-	數本芳行	校長	常任幹事	21	庄司洋子	広報
顧問		中鉢竜広	PTA会長	常任幹事	21	早坂公一	広報
顧問	-	早坂武	前PTA会長	常任幹事	22	伊藤憲保	企画
顧問	-	南澤一右	元PTA会長	常任幹事	24	阿部秀彦	企画
顧問	11	佐々木博	前同窓会長	常任幹事	24	小野順	広報
会長	20	森淳志		常任幹事	29	横山英子	企画
副会長	18	飯淵雅国	会長代行	常任幹事	25	今野和賀子	広報
副会長	19	菅原和子	総務・会計				
副会長	20	吉川逸郎	庶務	監事	22	太田克昭	
副会長	31	菅野敦子	総務(書記)	監事	20	村山和枝	
常任幹事	20	小松雅夫	企画	事務局	-	糸谷俊哉	教頭

「大きな円を描きなさい。そして、その弧になりなさい」。これは、ロバート・フランクー・ハーヴィーといつイギリスの宗教詩人の詩である詩の一節です。小さな円は自分が生きているうちに完成できるけれど、それよりも、大きな円を描いてその弧になれば、あとから誰かがその弧を伸ばしてくれる。

この一節は、私たちに勇気を与えてくれると同時に、時を超えてお母校を愛して止まない心持ちとも響き合います。コロナ禍の中、本同窓会に関わる全ての皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。

編集後記	今年度末卒業予定生徒数 153名
	1年 159名
	2年 173名
	卒業生累計 21,967名

本会報の題字は、元会長木皿謙氏の揮毫によるものです。

我が母校が所在する学区地域の歴史を振り返ってみたとき、校名とともに、現在に残る上杉の地名が生まれる根源となつてゐるいにしえの地名『杉山臺』はそこにあるのです。

本誌題名『杉山臺』について
第四代仙台藩主綱村公は、東照宮か
堤町の台地一帯に杉を植えて保護し『
山臺』と称しました。城下の各街から
家屋敷を通つてこの杉山臺に向かう道
上下(かみしも)の位置により『上杉山通
中杉山通・杉山通』と呼称しました。
これらの町名は二本杉通・光禪寺通など、
及び北番丁とともに、江戸時代から昭和
四十五年まで呼称されていた歴史ある町
名です。